

令和4年度施政方針（概要）

昨年度も一昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でありました。県内においても、昨年3月下旬に確認された松山市内の繁華街クラスターから県内に感染が拡大した第4波。7月には感染力の強いデルタ株が県内でも確認され、お盆期間の帰省などの影響もあり、第4波を大幅に上回る規模で感染が拡大した第5波。そして、年明け以降は、更に感染力の強いオミクロン株の全国的な急拡大により、県内でも連日過去最多の感染者が確認されたほか、市内においても複数のクラスターの発生をはじめ、職場内や家庭内を通じての感染拡大により予断を許さない状況が続いているところであります。

このような中、本市としても国、県の施策とも連動しながら、市民の皆様の生命・健康を守ることが最優先に、基本的な感染回避行動の徹底を繰り返し呼びかけるなど感染防止対策に最善を尽くすとともに、医師会や歯科医師会、薬剤師会をはじめとした医療関係者の皆様の全面的なご協力をいただき、感染防止や重症化リスクの軽減を図るため希望される方々へのワクチン接種を推進してまいりました。

一方、コロナ禍の長期化は地域経済全体に多大な影響を及ぼしていることから、国・県の支援策とも連動しつつ議会や経済団体からの要望も踏まえ、数次にわたる市独自の応援金の給付をはじめ地域とつながる商品券の発行による消費喚起など市民生活や事業者支援にも注力してまいりました。

改めて市民および事業者の皆様には、長期にわたる感染拡大防止対策へのご理解とご協力に心から感謝を申し上げますとともに、昼夜を問わず献身的にコロナに向き合っていただいております医師・看護師をはじめとした医療従事者の方々、そして私たちの生活を支えてくださっているエッセンシャルワーカーの皆様のご尽力に対しまして、この場をお借りして深い敬意と感謝を申し上げます次第でございます。

令和4年度 施政方針（抜粋）

令和4年3月2日「第84回宇和島市議会定例会本会議」において市長が表明した施政方針から、おもな項目を抜粋してお知らせします。なお施政方針全文については、市ホームページをご覧ください。



新型コロナウイルス感染症対策

- ▶ ワクチン接種についての丁寧な情報提供
- ▶ 希望する人の円滑な接種の促進
- ▶ 学校や保育所などでの感染防止対策。公的施設や避難所となる集会所などへの自動水栓の設置や空調高度化などの衛生環境整備促進
- ▶ 事業者向けの支援として、市内ホテルなどでの宿泊割引やバスツアーへの助成
- ▶ 第4弾「地域とつながる商品券」の発行。感染状況を見極め、機動的に対応 など

未だコロナ収束の見通しは不透明ですが、国・県とも連携して、現在進めております3回目となるワクチンの追加接種と小児接種の円滑な実施に取り組むとともに、引き続き感染防止と地域経済の両面からの対策を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、内閣府の月例経済報告によると我が国の景気は、「持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で一部に弱さがみられる」とされており、本市を含む地方においては、少子高齢化の進行、長期化しているコロナ禍による地域経済への影響など厳しい状況が続いているものと認識しております。

一方、本市の財政状況につきましては、財政健全化法に定める各指標などは概ね堅調に推移しておりますが、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興、南海トラフ巨大地震や頻発化する災害などに備えた防災・減災対策、大型の公

共施設やインフラの更新・整備など、先送りできない課題も山積しております。

このような状況を踏まえ、令和4年度当初予算においても引き続き堅実な財政運営を念頭に置きつつ、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとした喫緊の課題に対し機動的にしっかりと対応してまいり所存であります。

また、発災から3年8カ月余りが経過した豪雨災害からの復旧・復興の着実な実施はもとより、住民サービスの向上と行政運営の効率化など宇和島市DX推進計画に基づき将来を見据えたデジタル化の推進や、市長就任当初から取り組んでまいりましたシティーセールスを深化させるとともに、本市のまちの魅力を高め、市内外の多くの方々から「選ばれるまち」となることを目指し、2期目の公約で申し上げた「6つの創」の実現に向けて積極的に取り組むことといたしました。

豪雨災害からの復旧・復興

- ▶ 1人ひとりに寄り添った生活再建に向けた支援の継続
- ▶ 被災した公共土木施設、農地・農業用施設の復旧
- ▶ 農地の再編復旧、改良復旧などのハード整備推進
- ▶ 紅まどんな、紅プリンセスなどの新品種への転換支援
- ▶ 吉田公園野球場の観客席や防球ネット等の改修工事着手
- ▶ 「えひめ南予きずな博」関連イベントと連携し、交流人口の拡大や実需の創出につなげる
- ▶ 災害碑の設置 など

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ▶ 地理的条件不利地域における情報格差の是正
- ▶ 国の事業と連携したスマホ教室の開催、出前講座や相談窓口の開設
- ▶ 障がい特性に応じた情報提供体制の充実
- ▶ 健康アプリ利用者へのサポート体制強化
- ▶ 児童、生徒の1人1台端末を活用した魅力学習によるシビックプライド醸成
- ▶ 市税や保険料などのコンビニ収納、スマートフォンやクレジットカードでの決済サービス開始
- ▶ 子育てや介護などのオンライン申請拡充
- ▶ ペーパーレス化や業務自動化、RPAなどによる効率化を推進。外部人材の活用 など



本市のまちの魅力を高め、市内外の多くの人から「選ばれるまち」となることを目指し、「6つの創」の実現に向けて積極的に取り組みます。

1 産業を創る

高齢化が進む農林水産業の担い手確保、育成のため、移住対策とも連携し、県内外からの新規就業者に対して研修から自立までをトータルでサポートします。

農林業

- ▼鳥獣害被害防止対策の強化
- ▼ラジコン草刈り機の導入などスマート農業を推進
- ▼農業用施設の長寿命化や改修
- ▼森林環境税を活用した持続的な森林経営管理に向けた森林所有者への意向調査
- ▼林業経営に適さない森林を対象とした保育間伐による森林整備を拡充
- ▼南予森林アカデミーの研修生に対し就学奨励金を給付

水産業

- ▼経営安定を図る養殖共済と「積立てぶらす」への加入促進を支援

▼漁船漁業に対する魚価の低迷や不漁時への備えとして、漁獲共済に対する補助制度を創設

▼県漁協と連携した真珠母貝確保や避難漁場での養殖試験、種苗生産施設へのウイルス殺菌装置の導入補助

▼へい死に耐性を有するアコヤガイの作出

▼県や関連事業者と連携した海外販路開拓

▼#WithPearlの推進などによる真珠のPR活動や販売促進

商工業

- ▼DXに対応したICTセミナーの開催
- ▼姉妹都市などの観光交流強化
- ▼商店街団体などの自主的な取組みを支援
- ▼企業における就業環境の変化に対応したサテライトオフィスの誘致

2 安全を創る

南海トラフ巨大地震の発生が危惧されるとともに、全国で頻発化、激甚化する豪雨災害などに対する備えが叫ばれています。本市においても、平成30年7月豪雨災害の経験を活かした対策の強化が急務となっています。

災害対策の拠点となる本庁舎新低層棟

- ▼ 発災時の情報収集並びに初動対応を迅速かつ的確に行うため、新たに災害対策本部室を整備
- ▼ 総合防災情報管理システムの運用を開始

地域における災害対応力の強化

- ▼ 民間の災害対策支援団体との協定に基づき、支援の実効性を高めるためのヘリコプターを使用した実働訓練やヘリポートなどの拠点整備
- ▼ 地域防災力の中核となる消防団員の処遇改善を行うとともに、活動に必要な資格取得支援、さまざまな災害に対応するための装備・資機材の充実を推進

「自助・共助」の地域防災力向上

- ▼ 宇和島NPOセンターと連携し、新たに災害に備えて自治会などが実施する避難所運営訓練をはじめマイタイムラインや地区防災計画の作成など、体験型防災プログラムの開催を支援
- ▼ 自主防災組織や防災士会などとの連携強化

そのほか

- ▼ 矢ヶ浜から戸島、嘉島への海底送水管の更新工事に着手
- ▼ 市立宇和島病院のエネルギーセンター建設
- ▼ 豪雨時の内水氾濫対策や排水ポンプの整備
- ▼ 木造住宅の耐震改修支援



3 安心を創る

誰もがいつまでも住み慣れた地域で、生きがいをもって安心して暮らすことができるまちを目指します。

認知症対策、介護予防

- ▼ 認知症の診断費用を一部助成するなど初期段階での集中支援
- ▼ 地域と「生き生き教室」を結び、ジャンボタクシーを運行し、移動手段が無い人の参加促進を図るとともに買い物支援を実施

障がいのある人への支援

- ▼ 情報提供の充実を図るため、音声コードや文字情報作成ソフトウェアを導入
- ▼ 従来のヘルプカードに加えて支援パンダナを作成配布
- ▼ 歴史資料館に車椅子でも入館できるようスロープを設置

重層的支援体制の構築

- ▼ 三間の「もみの木」、九島の「島の保健室」で行っている地域全体で支える取り組みを吉田地域でも展開

- ▼ 自身で判断し意思決定することが困難な人を支援するため、松野町、鬼北町、愛南町との共同委託により、宇和島市社会福祉協議会に中核機関を設置

病院事業

- ▼ 医療従事者の働き方改革
- ▼ 臨床研修医を対象とした奨励金貸付制度を創設
- ▼ 移転新築した宇和島病院の院内保育所において、病児保育も開始
- ▼ 医療従事者の確保対策
- ▼ 吉田病院改編計画に基づき、令和5年度中の完成を目指し増改築工事に着手
- ▼ 新型コロナウイルス感染症への継続的な対応
- ▼ マイナンバーを活用した保険資格確認やスマートフォンによる呼び出しなど、コンシェルジュ機能の活用促進
- ▼ 動画やチャットボットによる病院案内

4 人を創る

山積する課題を解決するためには、行政だけでなく市民1人ひとりや各種団体なども協働しながら、我が事としてオール宇和島での取り組みが効果的と考えています。

市民協働のまちづくり

- ▼中央公民館における「青少年市民協働センター」通称ホリバタ事業での、おもに青少年のチャレンジをサポートしながら進めている人材育成を更に推進
- ▼社会経済情勢の変化を踏まえ、市内の各種団体、NPOや自治会の意見も伺いながら「市民協働のまちづくり推進指針」を見直し

未来の宇和島の担い手である子どもたちへの支援

- ▼地域の交流の場ともなっている子ども食堂への支援を拡充
- ▼ファミリー・サポート・センターの充実など、地域で子どもたちを見守る体制を強化

学校教育活動

- ▼特別な配慮を必要とする子どもたちを支援するため、学校教育



活動支援員の配置や業務内容を見直し

- ▼コミュニティ・スクールハンドブックを作成し、地域と学校が一体となって子どもたちを育ていく仕組みづくりの充実

施設整備

- ▼5つの小学校を統合する吉田統合小学校について、令和6年4月の開校を目指し、令和4年度から校舎などの建設工事に着手
- ▼三間認定こども園や発達支援センターの計画的な整備

コロナ禍による子育て世帯への影響を考慮

- ▼学校給食費の負担軽減対策を継続
- ▼副読本や教材費に係る負担軽減を図るため、就学援助の充実

5 まちを創る

伊達博物館の改築

- ▼設計業務の取りまとめができ次第、市民への説明会を開催
- ▼令和8年度の開業を目指して令和5年度中の工事着手を予定

津島やすらぎの里の再整備

- ▼できるだけ早期の再開に向けて設計業務に着手
- そのほか
- ▼畑枝川ポケットパークの2期工事への着手
 - ▼住宅の浄化槽設置にかかる補助対象を拡充

観光振興

- ▼「伊達なうわじまお城まつり」の実施
- ▼観光情報センター「シロシタ」を活用した観光情報の発信やお土産販売の強化



6 チームうわじまを創る

地方創生時代を勝ち抜くためには、戦略的かつ効果的な広報戦略と情報発信が重要です。

うわじまシティブランドイン
グ

▼第2期うわじまブランド魅力化計画に基づく各種シティセールス施策の展開

▼ブランドムービーを活用したデジタルマーケティングの実施

▼宇和島の日常の豊かさを切り取った写真や市民からのコメントなどを掲載したブランドブックの制作

人口減少対策

▼交流人口や関係人口の増加に向けて、ふるさと納税のWEB広告掲載やポータルサイトの追加

▼宇和島クラブ会員やうわじま応援隊との関係強化

▼移住定住施策の充実

▼従来の合同型移住体感ツアーに加え、移住を検討している人のニーズに沿ったオーダーメイド型の無料ツアーを実施

▼移住者や市内の子育て世帯が新たに住宅を取得する際の費用の一部を支援



▼個人や企業、団体とも連携を図り、住まいや仕事、生活など地域ぐるみのサポート体制を構築

▼周辺自治体と連携した南予地域への移住促進対策

そのほか重点施策

令和2年度に「宇和島市環境基本条例」を制定し、現在、具体的対策を示した環境基本計画の策定に取り組んでいます。

海洋ごみ対策

▼自治会、ボランティア団体、漁業者などによる取組みを拡充

▼国・県などの補助制度を積極的に活用しながら、新たに漁業者と連携した活動の強化や活動団体の裾野の拡大

▼セミナーや出前講座を開催し、排出抑制や回収促進につながる啓発や機運醸成を図る

さくらキャンパスの活用検討

▼活用検討委員会からの「美術館としての単独利用」および「スポーツ・ビジネス・アートとしての複合利用」の2案の答申を受けて、仮に整備・運営する場合の財源や問題点などを精査